

都道府県別賞一等

生命保険の大切さを学んだ時

神奈川県 茅ヶ崎市立北陽中学校 一学年

高中 駿伍

人間の命には、必ず終わりがあります。その終わりがくる日まで、どれだけ自分が望んだ生活ができるのか。どれだけ満足いく一生を送れるのか。そこが重要なことだと思えます。この夏、僕は、病気のおばあちゃんから生命保険の大切さを学びました。

僕のおばあちゃんは、抗ガン剤治療を始めて、三年。副作用から手足のしびれもひどく、家で転倒してしまいました。診断は、大腿骨頸部骨折と左手首の骨折でした。もちろん、入院です。手術代に、入院代、部屋代……とたくさん費用がかかります。僕が、

「お金は、大丈夫？」  
と聞くと、

「こういう時、保険に入っていて良かったと思うよ。保険で、大体は賄えるんだよ。健康体で、保険を使わず、ただ払っている時は、もったいないと思っただけだね。」

と笑って言っていました。お金の心配をしないで、治療を受けられるというのは、心の健康にとってもいいのではないかなと僕は思いました。

おばあちゃんの友達には、リハビリが長引くため、転院をしなければならなくても、部屋代一日、三三〇〇円を払うことが難しく、家に帰る判断をした人がいたそうです。杖をつくのもおぼつかないのに、自宅はエレベーターなしの三階。ソファもなく、ベッドもないところで、歩くためのリハビリがまだまだ必要な人がご主人と二人、どのように生活していくのでしょうか。

また、年金だけでは生活できず、働いていたパートをこのコロナ禍でやめさせられたり、景気の悪化で就職先も見つからないなど、ますます貧困高齢者が増えていくそうです。その中、病気が見つかり、必要な検査があっても、検査を受けるためのお金が用意できない。入院や手術代なんて、到底、払うことができない。生活するためのお金さえも足りない。そんな高齢者が増えていると雑誌で読んだことがあります。

今の世の中がそんな状況でも、おばあちゃんは、病気であることはとてもつらくしんどいことだと思えますが、お金の心配をすることなく個室で十分な治療を受けることができたのは幸せなことだったのでないかなと感じました。それも、生命保険のおかげです。

## 第59回中学生作文コンクール

僕も、自分でお金を稼ぐようになったら、色々な種類の生命保険をしっかりと吟味し、必要な保険に入っておくべきだと強く思いました。今の僕にできるのは、ベッドに長い時間いるおばあちゃんの話し相手、しびれた足のマッサージぐらいいけど、生命保険と同じぐらいいおばあちゃんのためになるように頑張ります。

一日も長く元気でいてね！